

# VERITAS vos liberabit



鹿兒島純心女子  
大学附属図書館報  
第6号(No.6)  
編集：図書館運営委員会  
発行日：2017.3.14

## 特集 サイドメニューを愉しむ

### ■巻頭言

図書館長 三間 晶生

図書館報名「VERITAS vos liberabit」は、ラテン語で「真理はあなたたちを自由にする」(新約聖書ヨハネ福音書8章32節)という意味です。

### contents

#### 巻頭言

館長 三間 晶生 1

#### Book Review

岡村 和信  
島 立久  
濱田 伸子  
北原 怜奈

(こと文3)小坏 千尋  
(こども4)牧 愛夏  
(健栄2)川畑 奈央  
(看護1)才木ひとみ

#### USER'S voice

(大学院) 下野 真衣 6

#### 図書館とわたし

柿元 美津江

#### Forum

チョークアート展  
純心アートギャラリー 7

#### お知らせ

編集後記 8

本の終わりにある書名、作者名、発行年月日、出版社名などの載ったいわゆる奥付がおもしろい。

J.K.ローリング作、松岡祐子訳『ハリー・ポッターと賢者の石』を読むとき、読者はこれが同作者の*Harry Potter and the Philosopher's Stone*の日本語訳で、「オリジナル」ではなく翻訳者を通して英語から日本語に再構築されたものだと知っている。あるいは田辺聖子『源氏物語』。同じ日本語でも現代の日本語に変えられたものもある。どちらにしても、読者は同じ作品といいながら本来の「オリジナル」ではないと分かって読んでいる。しかしながら、近代・現代の日本語作品はどうだろうか。今読んでいるのが、作者の書いたそのままの「オリジナル」なのかどうか考えたりしないのがふつうで、むしろ「オリジナル」だと思って読んでいるはずだ。

ところが、奥付などを読むとわかってくることがある。たとえば、夏目漱石『坊ちゃん』。1906年の発表だが、新潮文庫版(S25年発行、H元年98刷)には、「文字づかい」の方針が詳しく解説され、漢字・ひらがな・送りがななどかなり変更を加えていることが分かる。実際、この文庫版と『漱石全集』(岩波書店、S21)と比べてまず気づくのは、目に入ってくる字面の印象だ。岩波版は「いかにも

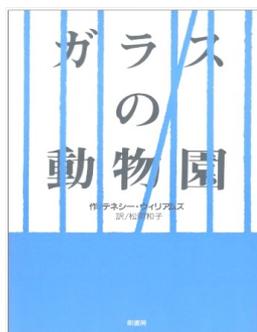
明治」という感じが強くする。文庫版は現代風にアレンジされた「別もの」で、平成の作品といっても疑う人はいないだろう。ことは文字使いだけにとどまらない。現代では差別・偏見につながるとされる、戦後間もない当時のことばを変えたとする作品もある。いわゆるポリティカル・コレクトネスだ。出版社や編集者が、読者のために読みやすく、より現代に則した作品にするために、それぞれの作品に手を加えてくれている。

読者は、漢字や文字づかいがとっつきにくく敬遠していた作品が読みやすくなるのはありがたいことで、得した気分になるのか、それとも、もともとの作者の意図とは関係なく「編集」して読みやすくアレンジされたものを読んで、どこかだまされて損をしたと感じるのか。また、断りなしに勝手に作品を変えられた作者は、もし生きていたならどう思うのだろう。本の内容とは関係のない道に、奥付というのはつながっていく。



# Book Review

おすすめの本を紹介していただきました



## 『ガラスの動物園』

テネシー・ウィリアムズ著  
劇書房



テネシー・ウィリアムズ(Tennessee Williams)の『ガラスの動物園』*The Glass Menagerie*という戯曲をご存知ですか。舞台は1930年代アメリカのセントルイス。登場人物は靴会社の倉庫で働くトム、南部出身で過去の思い出にしがみついている母アマンダ、小さなガラスの動物のようにはかなく美しい姉ローラ、トムの同僚ジムの四人。この作品は私たちの誰もが抱えている弱さ、傷つきやすさ、挫折感、罪の意

識などを、家族間の葛藤、成長の痛み、新旧文化・社会の対立の中で扱っています。また数々のシンボルや詩的イメージも使用され、きわめて美しい叙情的な作品になっています。キリスト教のイメージも数多く散りばめられ、たとえばアマンダを聖母マリアに、ジムをキリストに重ね合わせて読むこともできます。この作品の一番の魅力はやはりローラにあります。無力ではかなく、劇中「青いバラ」にたとえられる彼女は、この世に自然な姿では存在しえない美しさを持っています。作品の背景には作者ウィリアムズ自身のつらく悲しい経験が色濃く影を落としています。私はこの作品を読むたびに登場人物たちの姿を昔の自分や亡くなった息子の姿と照らし合わせてしまいます。これは心温まる、しかしとても悲しい作品です。

ことばと文化学科 岡村 和信



## 『数の悪魔： 算数・数学が楽しくなる12夜』

ハンス・マグヌス・エンツェンスベルガー著  
丘沢静也訳  
晶文社

「算数とか数学とか聞いただけで、脳が痙攣をおこして、『や、やめてっ！』と悲鳴を上げる人はいませんか。」

この本に出てくる青いパジャマを着た少年ロバートもそうだったのです。ところが、ある夜、ロバートは思いがけない夢を見ます。数の悪魔があらわれたのです。ちょっと意地悪そうな悪魔が、魔法のように数をあやつって、ロバートをからかったり、驚かせたりしながら、楽しいレッスンを始めるという話です。

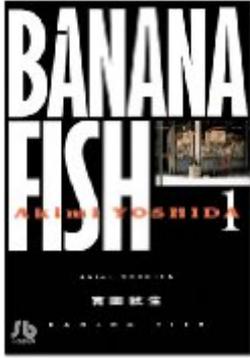
著者のエンツェンスベルガーは、1929年生まれ、ドイツを代表する詩人で数学者ではありません。彼の数学の先生から数学はおもしろいものであって、恐ろしいもので

はないということを繰り返し証明してもらったそうです。

登場する内容は、素数、三角数、フィボナッチ数、パスカルの三角形、順列と組み合わせ、うそつきのパドックなど、1夜ごとに取り上げられています。そのままでは難しい内容ですが、いざ読み進めると、そこには絵や図解が多く、法則やきまりが発見できるように数の悪魔が導いてくれます。見つけたときの喜びは大きいです。また、数の不思議さ、面白さに気付き、考えることが楽しくなってくることも味わうことができます。さらには、解決の多様性や意外性、明瞭簡潔といった算数・数学の特性にも触れることができます。特性に触れることは、算数・数学を学ぶ意義にもつながります。特に、小学校の授業では、子どもたちに伝えたいことの一つです。

算数・数学が大きらいだと思っている皆さん、小学校教員を目指そうと考えている学生の皆さんに一度は読んでもらいたい1冊です。そして、算数が好きな子どもたちはもっと好きになるよう、算数が大きらいだと思っている子どもたちは一人でも「面白いな」と言えるようなかわりができれば最高です。

こども学科 島 立久



『BANANA FISH』

吉田秋生  
小学館

図書館所在

1F文庫  
726.1 YO 1 / 11

1985年ニューヨーク。暴力が支配するこの街でストリートキッズを束ねる少年アッシュ。恐ろしいほどの美貌と知能、超一流の戦闘能力を持つ17歳の少年と、日本からやってきた平凡な少年の出会いから物語は始まります。

娘の本棚にずらっと並んでいる「バナナフィッシュ」というテーマを見て「バナナフィッシュって何？」と手に取ったのがきっかけでした。一言で言うと「愛と痛み」の物語で

す。ストリートキッズのリーダーとして自分の仲間を圧倒的な強さで守っているアッシュと、暴力とは無縁の世界から来た英二。唯一つ共通していることは、二人とも純粋で孤独ということだけです。この二人がかつてどこかに落ちてきた「かけら」を埋めあうように絆を深めていきます。それは、まるで二人であった人間が一人に溶けあうように。

人は誰でも、アッシュと英二のような出会いを夢みているのでしょうか。この物語を読んでいたころの自分を思い出すと、そんな気がしてなりません。一度手にとってみてください。

アッシュ、カッコいいです。



看護学科 濱田伸子



『置かれた場所で  
咲きなさい』

渡辺和子著  
幻冬舎

図書館所在

1Fキリスト教和書  
194.3 WA

私がこの本と出逢ったのは、社会人1年目、大学卒業後、社会人として働き始め、上司や先輩から厳しい言葉や指導を受け、お給料をもらって仕事をする社会人と学生との“差”を感じていた日々の時でした。

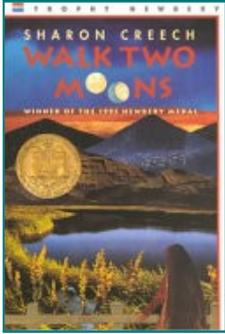
本のタイトル『置かれた場所で咲きなさい』当時の私には、ふと、何か惹きつけられるものを感じたことを今でも覚えています。本を読み進めていくうちにどんどん、スーッと心が楽になり、「うんうん、そうそう、そうだよな」と共感する内容でもありました。生きていれば、良いこと・悪いこと、失敗すること・成功すること、思い通りにいくこと・いかないこと等、様々な事に遭遇します。本の一節に「神は力に余る試練を与えない。人間に悩みはつきも

の。けれども、神さまは試練に耐える力と逃げ道をきつと備えてくださる。」とあります。この言葉は、壁にぶつかったときや諦めそうになったとき、気持ちが暗くなってしまったときに、今でも私に、とっても大きな支えとなっています。何かにつけて肩に力が入りがちな私に「希望を持って諦めずに前に向かって進んでいけば、必ず得るものはある。疲れ果ててしまう前に、時には休憩しながらゆっくり進むことも必要」ということもこの本が教えてくれました。

これから過ごしていく中で人や学校、仕事など形は様々ですが、多くの出逢いが待っていると思います。「ご縁を大切に」という言葉があるように、人を大切にしていれば、その先の自分自身を人として豊かにでき、出逢った人とも良い人間関係・信頼関係が築けると思います。この本を読んで私の価値観は少し変わったように思います。今まで当たり前のように過ごしてきた日々は、決して当たり前ではなく、多くの人の支えによって成り立つものだ気づかせてくれました。感謝する心を忘れず、「置かれた場所で咲く＝今置かれた場所が居場所であり、笑顔で精一杯頑張る」ということを教えてくれました。

健康栄養学科 北原 怜奈





### 『Walk to moons 』

by Sharon Creech  
Harper Trophy

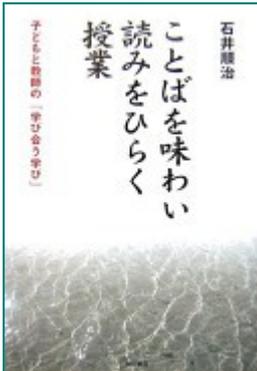
図書館所在  
1F Easy Readers  
933 CR

「いなくなってしまった母親を連れ戻したい。」そんな思いを胸に、13歳の女の子サラは当然家出をした母の足取りを追って、サラの祖父母と共にアメリカ横断の旅に出ます。アメリカの地理を知らない方はぜひ地図を広げて読んでみて下さい。旅の途中でサラは、同じように母親に突然姿を消されてしまった親友のフィービーの話をやっと祖父母に語ってゆきます。自分と同じような立場に置かれた親友の話しながらサラはいつしか自分の心の中の寂しさ、辛さ、

不信感を冷静に見つめるようになります。物語前半はサラが祖父母に語るどこかミステリアスなフィービー一家に起きた物語やサラ自身の体験談、自分の母親との思い出が交差していくことなく不思議な展開です。また3つの時間軸が交差するので最初は混乱しやすいのですが、地図で位置を確認しながら読み進めていくと、サラと一緒に自分も動いている気がして物語に入りやすかったです。終盤になってそれらの意味が繋がり、謎が一気に解けていきます。謎解きばかりに目が行って先へ先へと読み進みましたが、こんこんといくつもの思いが湧き起こるような読後感でした。決して望み通りではない結末への驚きと悲しみがある一方で、成長する少女の心を、アメリカの広大な風景とともに描いた心温まるお話です。日本語版は、もきかずこ氏の訳で「めぐりめぐる月」というタイトルで出版されています。皆さんぜひ一度読んでみて下さい。

ことばと文化学科3年 小坏千尋

## 学生の皆さんによるBook Review



### 『ことばを味わい 読みをひらく授業 』

石井順治著

図書館所在  
1F和書  
375.852 I

私がこの本を手にとったきっかけは卒業演習論文を書くためです。「授業における子どもの声を聴く」ことを研究するためにこの本を参考にさせていただきました。この本の内容は、文学を読み、学び合う授業とはどのような授業であるのか、文学の作品を「味わう」ことで、子どもたちがどのようにその作品を理解して学びを深めることができるのかを石井氏が見てきた授業を通して、感じられるような内容となっています。

第1章では、石井氏が感じる今の子どもたちへの2つの不安を挙げ、学校が取り組むべきことや授業の改革について事例をもとに「学び合う授業」や教師の在り方を述べています。

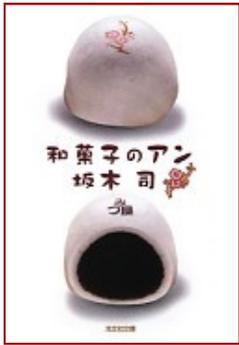
第2章には、実際に3人の授業者の授業を子どもと教師のやり取りを忠実に再現しながら、場面が記されており、場面ごとに石井氏の気づきや考えが含まれています。学年ごとに分かれ、テキストの内容も記されており、授業の流れが再現してあるため、とても見やすく、また、

授業場面での様子が分かるように、写真も含まれており、より授業場면을想像しやすかったです。実際の授業風景が記されているので、教師の立ち振る舞いや言葉かけ、聴く姿勢、子どもたちの雰囲気や表情が思い浮かび、とても参考にしやすかったです。

第3章では、第2章で挙げられた事例の共通点をまとめており、より具体的に「学び合う学び」が成立するときの条件が書かれています。その中で印象的だった場面が「聴く・つなぐ・もどす」と「聴き合う」場面です。子どもの声を聴き、テキストや子ども同士、またその子ども自身の考えとどうつながっているのか、またテキストに戻すことによって読みが深まるということが書かれており、子どもの言葉を教師が聴くだけではなく、子ども同士が互いの声を聴き合い、授業をつないでいくことで学び合いの授業が創られていくことを学びました。同時にそのような関係を築いていくためには教師がまず、子どもを受け止め、聴く姿勢を持つことが必要であることにも気づくことができました。

私自身、これから教育の現場に立ち、多くの子どもたちの出会い、授業をしていくことに対して大きな不安があります。しかし、この本を通して、子ども主体の授業にし、学びを深めるための教師の在り方とはどのようなべきなのか、授業での技術について学びを深めることができました。この本はこれから教育に携わる方はもちろん、今現場で子どもたちと授業をしている方に、一度は読んでいただきたい本です。

こども学科4年 牧 愛夏



### 『和菓子のアン』

坂本司著  
光文社

図書館所在  
1F文庫 913.6 SA

突然ですが、あなたは和菓子と洋菓子のどちらが好きですか？大半の人は、後者を選ぶと思います。私もこの本を読むまではそうでした。和菓子と聞くと、お年寄りの方が好む地味なイメージを持ってしまいます。それとは異なり洋菓子は、煌びやかで若い人達に人気です。しかし、この本の主演は和菓子です。一見、地味に見えて実は、和菓子には、日本の歴史が秘められています。この本は、そのことを教えてくれます。読んでみると、和菓子が食べたくてきます。それも、スーパーやコンビニに売っているものではなく老舗のものを。

私がこの本を知ったきっかけは、元々作者のファンだったからです。前作のひきこもり探偵シリーズから作者の本を読み続けていました。その中で、この本を選んだのは、主人公のアンちゃんに親近感を覚えたからです。彼女

は、私と年の近い18歳で、自分の将来に悩みながらも、自分の適性に気づき成長していきます。その姿に、私もアンちゃんのように頑張ろうと思えます。この本のあらすじにもあるように、これはミステリーなんです。最初、このことを知った時、驚きを感じ、納得しました。舞台は、デパートの地下にある「みつ屋」という和菓子屋さんです。アンちゃんはこの店で働いており、来店する人が何故この和菓子を買って行くのかを店長や同僚達と謎を解いていきます。だから、ミステリーなのかと思いました。謎を解いていく上で、和菓子の歴史や、その名をつけられた理由などが紐解かれていきます。本にも書かれているように、和菓子は意味が解ることでよりいっそう感じると思えます。

私は、この本の中で出てきて好きになった和菓子は星合です。この和菓子は、ぱっと見地味ですが、七夕の和菓子です。これは、織姫と彦星が出会うためカササギが橋を架ける前の夜空を表わしています。とてもロマンチックで素敵だと思うし、この和菓子こそ意味を知らないとおもしろいと感じられないと思うからです。

この本を読んで、和菓子についてもっと知りたいと思いました。又、私は、古典も好きなのですが、和菓子は古典に関わっているものもあると知り、和菓子を食べるときは調べたりしたいと思いました。そして、この本を読んで、和菓子を知れて、好きになることができました。

看護学科1年 才木 ひとみ



### 『何者』

朝井りょう著  
新潮社

図書館所在  
1F和書 913.6 A

「自分は自分にしかできない。痛くてカッコ悪い今の自分を、理想の自分に近づけることしかできない。みんなそれをわかっているから、痛くてカッコ悪くたってがんばるんだよ。カッコ悪い姿のままがあくんだよ。」最近の若者はSNSを通して自分の理想とする何者かになるうとする。私もきっとその一人だ。ありのままの自分に理想とするものの衣装を身にまとい、本当の自分ではない者を装う。

私が進路について考え始めた時に、この作品が映画化され話題になった。最近注目を集めている俳優が出演している作品だからという理由でこの本を手にとってみたところ、とても興味深い内容だった。「就職活動」をテーマにした当作品は他人事と思うことができないほどリアルな大学生の心情が散りばめられていた。

私は、今まで自分をアピールする時にはある何者か

を取り繕って本当の自分をさらけ出すことを避けていた。しかし数年後には、自分自身を武器にして他人と戦わなければならない就職活動が控えている。この作品に出会わなければ、私も主人公の拓人のようなカッコ悪い自分を受け入れてがむしゃらに頑張る人を観察して心の中で批評し、カッコ悪い自分と距離をおいてありのままの自分をひたすら隠し続ける就活生になっていただろう。「自分は自分にしかできない」。心に響いたフレーズだ。どんなにカッコ悪い自分を着飾って理想とする『何者』に近づこうとしても、相手に全て見透かされるように思える。

自分の欠点も短所も嫌いなところも全部含めて「自分」であることを認め、恥じることなくさらけ出すことが大切なのだろう。

作品の最後の部分に「長所は、自分はカッコ悪いということ、認めることができたところです」と面接官に言う場面がある。主人公はこの時初めて本当の自分をさらけ出しているが、「落ちて、たぶん、大丈夫だ。」と思うことができる勇気を手に入れている。現代社会の中で本当の自分をさらけ出して勝負するのは難しいことだが、カッコ悪い自分を受け入れてこれからの就職活動に挑みたいと思う。

健康栄養学科2年 川畑 奈央

図書館を利用する目的は、授業の準備やレポート作成に必要な文献を探すため、静かな空間で学習したり、本を読んだりするためなど一人ひとり異なると思います。本を探す際には、インターネットで書籍名や著者名を検索することにより、目的の本があるかどうか、図書館のどの場所に置いてあるかなど、すぐに探すことができます。また、本は分野ごとに配置されているため、関心のある分野の棚に並べられている1冊1冊の本と向き合うことで、自分にとって必要な本を見つけることができます。と思います。

また、私は図書館をゆっくりとした時間を過ごすための憩いの場としても利用しています。みなさんのなかには、図書館と聞くと「文献を探す場」や「知識を深める

場」といった堅いイメージを抱く方もいらっしゃるかと思います。しかし、鹿児島純心女子大学の図書館は、丁寧な対応をしてくださる職員の方々や、入口の近くにある絵本コーナーなどにより、柔らかい雰囲気となっています。入口の近くにある絵本コーナーには、「バムとケロ」や「はらぺこあおむし」など小さい頃に読んだことのある絵本などが置いてあり、懐かしい気持ちを思い起こさせてくれます。そのため、私は文献探しのためだけでなく、懐かしい気持ちに浸りながら、ゆっくりとした時間を過ごしたいときにも図書館に足を運んでいます。

みなさんも文献探しや知識を深める場として、また時には憩いの場として図書館に足を運ばれてみてはいかがでしょうか。



## 図書館とわたし

看護学科 柿元美津江

小学校と中学校の図書館を思い出そうとしても思い出かばない。読書週間や読書感想文の提出の時とか、いったいどうしていたのだろうか。高校の図書館は、勉強する机があって周りに多量の本が並んでいたと、ほんの少し覚えているが、驚くほど私の世界に図書館は存在していなかった。

そんな私と図書館との出会いは、数年前に3年間通った大学院生活の時である。市役所に勤めながら大学院で学ぶことを決め、修士論文に取り組んだ時のことである。市役所では地域包括支援センターで高齢者支援を行っていた。独居高齢者と要介護認定率の関係性について論文をまとめた。この論文を書くのに多くの時間を図書館で過ごした。院生は個室が使える環境で、朝から夜まで図書館の1室に自分のパソコンを持ち込み、ひたすら格闘した。

必要な論文は、大学にあることも多くすぐに手に入れられ、また、大学にない論文は司書の方にお問い合わせと取り寄せてもらった。

気分転換に大学だけでなく、いくつか他の図書館も利用した。鹿児島県立図書館や薩摩川内市の図書館の学習室では、多くの高校生が学習しており、高校生にしてみれば違和感があったかもしれないが、気にせず一緒に学習した。高校生たちも静かに整然と学んでいた。特に夏は助かった。クーラーが入っているので学習環境としては最高だった。

図書館がなければ、おそらく修士論文は書き終わらなかったのではないかと、図書館に感謝している。

インターネットで多量の高度な知識が得られるようになった今、役割が変わってきているかもしれないが、学ぶ者にとって図書館が大切な場所であることは変わらない。学生の皆様も、自分流の上手な使い方をみつけて大いに活用し、夢を叶えて欲しい。図書館は、きっといい相棒になってくれると思う。



# forum



## Lourdes ルルド

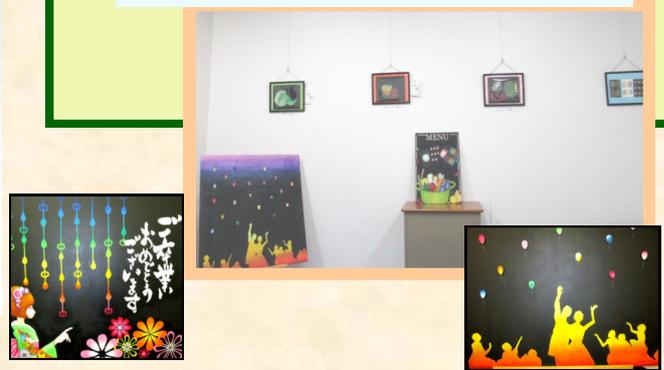
図書館での学習に疲れた時など、ひと休みしたい時のために、図書館1階フロアの片隅にルルド(憩いの空間)の部屋を設けています。ソファに腰掛け雑誌を眺めたり、学生の皆さんによる、オリジナル作品の展示を楽しむことができます。

ルルドでは皆さんのオリジナル作品を募集しています。皆さんの腕前を披露してみませんか？



## 📎 チョークアート展 📎

チョークアートサークルによる「チョークアート展」開催中です。日頃の練習の成果を発揮した作品を是非ご覧ください。



## 純心 \* アートギャラリー

図書館棟2階の回廊のアートギャラリーの絵画をじっくり鑑賞されたことがありますか。興味を持っていただこうと企画し、図書館報で1作品ずつ紹介していきます。記念すべき第1作品目は、「書物の聖母」です。



### 「書物の聖母」

サンドロ・ボッティチェリ  
Sandro Botticelli (1444/5-1510)

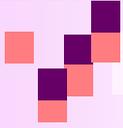
ポルディ・ペッツォーリ美術館蔵  
(ミラノ)

1482-83年頃 テンペラ

「書物の聖母」は昨年、東京都美術館「ボッティチェリ展」で初来日を果たしました。ボッティチェリと言えば「ヴィーナスの誕生」「春」が有名ですが、この「書物の聖母」は作者の円熟期の作品で緻密に描写され技量が光る作品の一つです。絵画には、多くのメッセージが込められています。この作品は聖母マリアと幼子イエスの微笑ましい絵ですが、よく見ると幼子イエスの左手に3本の釘と茨の冠が描かれ、受難を暗示しているものです。この他にも隠されたメッセージがいくつかあります。興味を持って調べてみてはいかがでしょうか。

### ボッティチェリの作品を知るために…

- ・『聖母マリアの美術』、諸川春樹、利倉隆著 美術出版社、1998年
- ・『巨匠たちのマリア』、ブルス・ベルナルド著 中央出版社、1990年
- ・『ルネサンス美術館』、石鍋真澄監修 小学館、2008年
- ・『絵画の見かた』ケネス・クラーク著、白水社、2003年
- ・『ボッティチェリと花の都フィレンツェ』辻茂監修、博雅堂出版、1994年 ほか



## お知らせ

- 図書館に備え付けのiPadは館内であれば自由に持ち運んで使用できます。
- 学外文献複写申込用紙には通し番号を付与していますので、図書館に備え付けのものを利用して下さい。コピーして使わないようにお願いします。パソコンからの申込みは従来通り行うことができます。
- 文献検索ガイダンスは随時受け付けています。個人でもグループでの申込みも可能です。レポートや卒業論文作成に役立ちますので、早めの受講をお勧めします。

## 図書館システムが新しくなりました

今年度、図書館システムの更新を行いました。  
OPAC(図書館資料の検索)や、My Libraryの使い方など、ご不明な点はお尋ねください。  
My Libraryからは、資料の貸出延長、文献複写の依頼、図書購入依頼、その他の調査や問い合わせなどが可能です。



### 卒業後も利用できます

在学時より利用制限はありますが、貸出も可能です。ご利用下さい。(※貸出冊数5冊、貸出期間2週間)  
大学に来られたら、まず大学の受付で入館の手続きを行って下さい。その後、図書館へお越しください。  
皆様のご利用をお待ちしています。

## 編集後記

今号は、専門書だけでなく、自分の人生や生き方について考えを深めていけるような図書を広く取り上げた。学生のブックレビューからは、図書を通じて自らを高めようとする姿や、教養を深めようとする姿が伝わってきて快い。言うまでもなく、専門書や資料をそろえるだけが大学図書館の役割ではない。人生を豊かにする教養を積んでいけるような文献にたくさん出会うことは、学問以前に、あるいは学問の基盤をつくる上で、とても大切なことだ。また、心穏やかに図書と向き合う時間と空間も欠かせない。そこにいるだけで癒され、教養が高まっていく……本学附属図書館にはそのようなサイドメニューがたくさんある。学生諸姉には、是非在学中に、本学附属図書館で過ごす愉しみを味わってほしいと願ってやまない。(KH)



鹿児島純心女子大学附属図書館報

*VERITAS vos liberabit*

No.6

編集・発行：図書館運営委員会

発行日：2017年3月14日

〒895-0011

鹿児島県薩摩川内市天辰町2365番地

TEL：0996-23-5311 / FAX：0996-23-5030

E-mail: veritas@jundai.k-junshin.ac.jp